

じゅらくだい 聚楽第

平安宮の跡(北東域)に造られた聚楽第(城)は、織田信長亡きあと実権を握った(天下人)豊臣秀吉の象徴とも言うべき燦然と金箔瓦が輝く政庁兼邸宅でした。着工1年半のスピードで建設され、1587年に完成しています。後陽成天皇と正親町上皇らが行幸された聚楽第も、秀吉が晩年期を迎え、秀吉にとって忌まわしい城となった聚楽第は1595年、わずか8年で完全に取り壊されてしまいます。太閤秀吉の築いた一代の栄華が夢と崩れゆく幻の聚楽第(城)跡の見どころをめぐります。

三井家本『聚楽第図』
「京の城一洛中洛外の城郭一」京都市文化財ボックス第20集
京都市文化市民局文化財保護課より転載(一部改題)(財)三井文庫蔵

～ 聚楽第の創建 ～

1585年に関白となり天下の実権を握った豊臣秀吉は、平安宮の跡地に煌びやかな聚楽第を1587年に完成させ、京都を取り囲む22.5kmに及び御土居を築きます。聚楽第は本丸・南二ノ丸・北ノ丸・西ノ丸の内郭と外堀に囲まれた外郭の二重構造となっていました。聚楽第を中心として大名屋敷が設けられ、市中は平安京の条坊制による正方形地割を短冊形地割に変え(天正の地割)、また禁裏御所は大改修されてその周辺に公家屋敷が集められ、市中の寺院は移転させて寺町・寺之内を造るなど、後の城下町のモデルとなった京都の大改修を行いました。聚楽第へは後陽成(ごようせい)天皇、正親町(おおきまち)上皇らの行幸もあり、北野天満宮では北野大茶会が開催される等、京都は秀吉の権勢により華やかな時代を迎えていました。



妙覚寺の大門
聚楽第の裏門を1663年に移建したものとされています。府指定有形文化財
所在地：上京区下鴨蔵口町上御前通堀川東入

聚楽第の遺構を訪ねて

1 本丸東堀跡

1991年に行われたハローワーク京都西陣の発掘調査で、本丸東堀の西肩部分が確認され、堀内から多数の金箔瓦が出土し、国の重要文化財に指定されました。(中立売通大宮西入 和泉町他)

5 南北方向の堀跡

土屋町通中立売下るの道路に残る傾斜は2m以上の落差があります。聚楽第の西外堀によるものではないかと考えられています。(土屋町通中立売通下る)

2 北ノ丸北堀石垣跡

写真のマンションの北端に石垣があります。高さは2.5m、東西幅は150mあり、北堀跡の段差を残すものとみられています。(一条通 智恵光院東入 鏡石町)

6 南外堀跡(松林寺境内)

松林寺本堂から墓地にかけての落ち込みが聚楽第の外郭南堀跡と考えられており、「此付近聚楽第南外堀跡」の石碑が門前にあります。また、山門前から北の出水通までは約3.5mの高低差があります。

3 本丸西堀跡

正親小学校の北東に「此付近聚楽第址石碑」があります。聚楽第は一条通付近の北堀、大宮通付近の東堀、裏門通付近の西堀、下長者町通の南堀で囲われていたと推定されており、この付近は本丸の西堀跡と見られています。(中立売通裏門多門町)

7 西ノ丸南堀跡

1964年に聚楽第の堀跡を最初に発見した発掘調査地です。下長者町通の北に南肩があり、北肩まで4.3mの幅がありました。(下長者町通 浄福寺西入 坤高町)

4 東西方向の堀跡

推定図には示されていませんが、2000・2001年に千本中立売郵便局の北西地点の調査で聚楽第に関連するとみられる東西方向の堀の南肩部分が確認されました。

8 本丸南堀跡

交差点の北西角で2001年の発掘調査により本丸南堀の南肩が確認されました。下長者町通の北7mの位置では、堀の深さは地表下3mを超えていました。(下長者町通 智恵光院 山本町)

豊臣家の出来事と聚楽第

天正13年(1585)	7月	秀吉が関白となる
天正14年(1586)	2月	聚楽第造営開始
天正15年(1587)	9月	聚楽第完成
	10月	北野大茶会開催
天正16年(1588)	4月	後陽成天皇・正親町上皇聚楽第に行幸
天正17年(1589)	3月	御所修復開始
	5月	子、鶴松誕生
天正18年(1590)	8月	天下を統一 天正の地割を開始
天正19年(1591)	1月	御土居の築造開始 天正遣欧少年使節、聚楽第で謁見
		弟、秀長死去(51歳)
		千利休、切腹(70歳)
		御土居の完成
	2月	子、鶴松死去(3歳)
	8月	甥の豊臣秀次に関白職と聚楽第を譲る
文禄元年(1592)	2月	御陽成天皇聚楽第に行幸
	7月	母、なか(大政所)死去(80歳)
	8月	伏見城の築城開始
文禄2年(1593)	8月	子、秀頼誕生
文禄3年(1594)	8月	伏見城完成、秀吉入城
文禄4年(1595)	7月	秀次が高野山で切腹 聚楽第を破却
	8月	妻妾子女39名を処刑、家臣処断
	9月	方広寺大仏開眼の千僧供養を行う
慶長元年(1596)	7月	伏見城と方広寺大仏殿が地震で崩壊
慶長3年(1598)	3月	醍醐の花見
	8月	秀吉、伏見城で薨去(62歳)



聚楽第周辺出土瓦



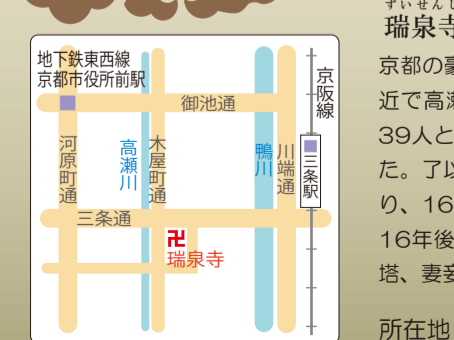
9 西ノ丸南堀跡

1964年に聚楽第の堀跡を最初に発見した発掘調査地です。下長者町通の北に南肩があり、北肩まで4.3mの幅がありました。(下長者町通 浄福寺西入 坤高町)

8 本丸南堀跡

交差点の北西角で2001年の発掘調査により本丸南堀の南肩が確認されました。下長者町通の北7mの位置では、堀の深さは地表下3mを超えていました。(下長者町通 智恵光院 山本町)

聚楽第周辺の見どころ



A 白峯神宮
1868年に明治天皇が孝明天皇の意志を継ぎ、保元の乱後讃岐に配流された崇徳上皇を祀って創建されました。その後1873年に淳仁天皇の神霊も合祀され神宮となりました。鎌倉時代前期にはじまる蹴鞠(けまり)と和歌の宗家・飛鳥井家(あすかいか)の屋敷跡に建ち、境内社に蹴鞠の守護神「精大明神」もあり、スポーツ関係者の参詣が絶えません。

B 清明神社
陰陽師ブームで一躍有名になった安倍晴明の邸宅跡に建つとされる清明を祀る神社です。また、ここには聚楽第があった頃、千利休の屋敷があったとされ、屋敷跡の石碑が建っています。境内には晴明の急持力で湧出したとされ、利休が茶事に使ったとされる「清明井」もあります。

C 史跡伊藤仁斎宅(古義堂)跡と書庫
江戸時代前期に活躍した儒学者の伊藤仁斎の邸宅と書庫跡です。仁斎は生家で古義堂という私塾を開き3000人を数える多くの門下生を輩出しました。屋敷跡には堀越しに市指定の保存樹である見越しの松のクロマツが見えます。(邸宅は非公開)

D 一条戻り橋
平安京造営の時、堀川に架橋され、現在の橋は1995年に架け直されました。陰陽師・安倍晴明が、式神を一条戻り橋の下に隠していたといわれています。

E 堀川の清流
堀川は約1200年前、平安京造営時に運河として開削され、京都の暮らしを支えてきました。昭和30年代に、水の流れがなくなりましたが、2010年に親水公園が完成、清流が戻りました。ホテルを戻すプロジェクトやイベント「京の七夕」も開催されています。

1 堀川第一橋
1874年に御所と二条城を結ぶ公儀橋として、木橋であった中立売橋に石造のアーチ橋が架橋されました。また、翌年には下立売橋に堀川第二橋が架けられ、別名、亀橋、鶴橋とも呼ばれていました。

2 市電の鉄橋土台跡
1895年、京都に日本最初の電気鉄道が走りました。1912年に市電(チンチン電車)が単線から複線化されたときの鉄橋土台が残っています。

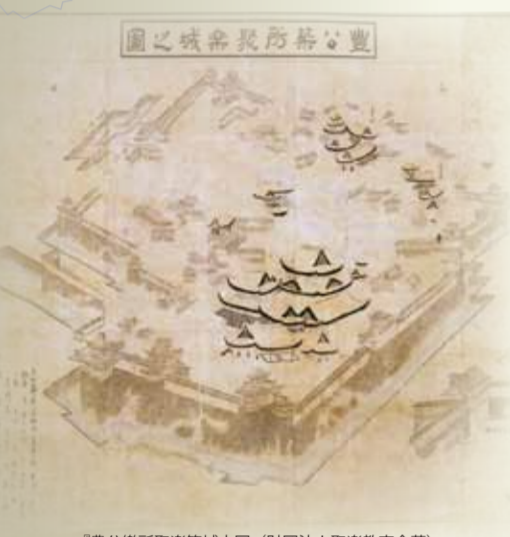
3 市電鉄橋跡
市電が走っていた当時の橋桁が、今も残っています。飛び石のオブジェは、橋梁跡をあらわしています。

瑞泉寺
京都の豪商、角倉了(すみのくろりょう)が、三条河原付近で高瀬川の開削をしていたところ、豊臣秀次、妻妾子女39人と家臣たちが葬られた塚「秀次悪逆塚」を発見しました。了は供養のため、秀次の戒名「瑞泉寺殿」から名をとり、1611年に「瑞泉寺」を建立しました。秀次の切腹から16年後のことです。瑞泉寺には秀次の菩提を弔う六角石塔、妻妾子女たちの五輪塔があります。

所在地：中京区木町通三条下る



～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

聚楽第周辺の発掘調査

かつての平安宮北東部に豊臣秀吉が天正十四年（1586）に造営を開始した聚楽第は、堀と石垣で囲まれていた城郭ですが、文禄四年（1595）に秀次失脚の後、秀吉の命により完全に破却されました。そのため位置や規模などが明らかではありませんでしたが、発掘調査②で本丸東堀とみられる大規模な堀跡が見つかりました。東堀跡から出土した軒瓦のほとんどが金箔瓦で、本丸の建物に葺かれていたとみられます。近年の発掘調査④では、本丸南堀跡の石垣が発見され、初めてその実体わかり、大きな成果となりました。さらに試掘調査①では、北ノ丸北堀石垣跡も見つかりました。試掘調査③では、西ノ丸南堀跡の南肩を確認しました。それらの調査の成果や、町名などにみられる地名などを繋ぎ合わせ、かつての聚楽第の姿に迫ることが可能になってきています。また、聚楽第周辺においても武家屋敷門跡⑤が発見され、京都御苑西側での発掘調査では、桃山時代の建物跡や数多くの金箔瓦が出土し、大名屋敷の主要な建物にも金箔瓦が葺かれていたこともわかりました。

⑤ 武家屋敷門跡（上京区下立売通千本東入田中町）

1985年の発掘調査で平安宮内裏承明門跡の上層が発見された、東西に開く四脚門跡です。約0.3m大の礎石を一边約0.5m方形の堀形内に据えていました。門の幅は3mで1.5m離れて控柱があります。聚楽第廃城時に解体されたようで、各堀形には礎石抜き取りの痕跡がみられました。



基礎が残る門跡の様子

大名屋敷跡から出土した金箔瓦

金箔瓦は、聚楽第の周辺に配された大名屋敷で使われていたものとみられ、金箔は漆を接着剤として貼り付けられています。いずれも新町小学校の発掘調査で出土したものです。



鯨瓦

「山」銘軒丸瓦

違い鷹羽文軒平瓦

唐草文軒平瓦

① 北ノ丸北堀（上京区鏡石町）

1997年の試掘調査により、北ノ丸北堀跡の南側で石垣が発見されました。現在、この石垣は現地の地中に保存されています。また、この石垣の北側に後世のものですが、高さ2.5mの石垣が東西に約150m残っており、北堀の段差を示しています。これらの石垣の間が北ノ丸の北堀跡になると考えられ、北堀の幅は約20mであることが判明しました。



北ノ丸北堀跡の石垣



北ノ丸北堀跡の段差

金箔瓦の出土分布から見た聚楽第と大名屋敷

1950年から現在までの調査で出土した金箔瓦の分布をみると、丸太町通以南まで30箇所以上に及んでいます。当初の大名屋敷地区が天正十九年（1591）豊臣秀吉による京都大改造の「京都屋敷替え」により、広がったといえます。その分布は北は一条通、南は下立売通、東は烏丸通、西は堀川通の間に集中しています。この範囲は京都府庁などの公的施設が多く、発掘調査の規模が大きいとはいえ、1地点からの出土量が100点を超える例が多く、聚楽第と比較しても、その多さは際立っています。



金箔瓦の出土分布図



上京中学校から出土した金箔瓦

② 本丸東堀（上京区大宮通中立売通下ル）

1991年の発掘調査で東堀跡が発見されました。幅約26m、深さ8m以上の大規模な堀であることが調査で確認されました。堀を埋めた礫を多く含む埋土は、堀を掘削した時に出土した土です。東側から埋められた様子がよくわかります。堀跡からは軒丸(のきまる)・軒平(のきひら)瓦をはじめ多種多様な金箔瓦が出土しました。これらの金箔瓦は聚楽第本丸に使用された瓦として2002年3月、国の重要文化財に指定されました。本丸の建物の装飾性がうかがわれます。



本丸の東堀跡



本丸の東堀の断面観察により埋められた様子が分かる

⑥ 京都市生涯学習総合センター「京都アスニー」(中京区聚楽廻松下町9-2)

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）1階には、平安京を立体的に体感できる展示施設があります。そのほか、陶板壁画や聚楽第跡から出土した遺物も展示されています。



京都アスニーの外観



「洛中洛外図屏風（上杉本）」陶板壁画



聚楽第跡から出土した金箔瓦



本丸の東堀跡から出土した金箔瓦

(写真提供：公財 京都府埋蔵文化財調査研究センター)

③ 西ノ丸南堀（上京区須浜町）

2001年の試掘調査で発見された西ノ丸を巡る内堀の南肩。幅4m以上の規模が確認されました。今後、堀の北側が確認できれば内堀の規模が確定されるでしょう。



西ノ丸南堀の南肩（手前が肩部）

(写真提供：京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)

④ 本丸南堀の石垣（上京区上長者町通裏門）

2012年の発掘調査で、本丸南堀の石垣が発見されました。石垣は東西約32mにわたり確認され、花崗岩を主とする自然石を二段に積み、背面の土の間には水はけをよくするために栗石（くりいし）という細かい石が充填（じゅうてん）されていました。石垣の南の堀内からは金箔瓦も見つかっています。



東西約32mにわたり確認された本丸南堀の南面石垣



本丸南面(東から)石垣の様子

(写真提供：公財 京都府埋蔵文化財調査研究センター)

